

## 令和2年度 教職員による自己評価アンケート結果

		肯定評価 (50%ライン)		否定評価		
教務	1	各部・各学年・各教科との連携を深め、校務運営の円滑化が図られている。	13	60	21	6
	2	校内外の研修の充実に努め、教職員の資質向上を促進できている。	23	63	15	0
	3	広報活動等を通して保護者・地域社会との連携が積極的に進められている。	23	65	13	0
生徒指導	4	校則について職員の共通理解に基づいた「その場」「その時」の日々の指導ができている。	17	65	19	0
	5	教育活動の様々な場を通して生徒理解に努め、人としての生き方・あり方を考えさせた指導ができている。	25	69		60
	6	効果的な生徒指導ができるように、家庭及び地域と連携した指導に努めている。	19	71	10	0
進路指導	7	3年間を見通した計画に基づき、自己理解や進路意識の高揚・志望の早期決定がなされるよう努めている。	15	67	17	2
	8	生徒の学力向上の取組が計画的・組織的に実施され、その目標が達成されている。	9	57	32	2
	9	生徒をよく理解し、生徒の実態や希望に即して多様な入試制度（AO入試、推薦入試、一般入試）への対応が図られている。	27	60	13	0
保健	10	健康・体力の保持増進が組織的・計画的に行われている。	33	63		40
	11	施設・設備の点検・整備に努め、災害や安全に対する意識の高揚が図られている。	31	63		42
	12	清掃指導が計画的・組織的に実施され、環境美化が図られている。	27	54	17	2
学年	13	各学年の特性と課題に対して情報交換の機会を多く設定し、共通理解が図られている。	31	58	8	2
	14	学年会がよく協力し、学力向上、生徒指導、進路指導に積極的に取り組んでいる。	35	52	13	0
	15	日々の連絡や学級通信等を通じて、保護者との連携を密にし、その理解や協力が得られるよう工夫している。	32	60		90
SSH	16	大学・各種研究機関との連携によって、魅力的なカリキュラムの開発・展開ができている。	33	63		40
	17	SSHの活動が学びへのモチベーションを向上させ、進路実現に役立っている。	25	60	15	0
	18	SSHの活動が、理科、数学、英語、情報などの他教科と連携した実践になっている。	21	56	23	0

(数値は%)

十分達成できている  
  概ね達成できている  
  やや不十分である  
  不十分である